

Nara National Museum

奈良国立博物館

だより

第 **128** 号

令和6年 1・2・3月



重要文化財 不動明王坐像 (奈良・普門院)

特別陳列

おん祭と春日信仰の美術

—特集 春日の御巫—
~1月14日(日)
西新館

特別陳列

お水取り

2月10日(土)~3月17日(日)
西新館

特集展示

新たに修理された文化財

~1月14日(日)
西新館

特別展

生誕1250年記念特別展
空海 KUKAI(予告)
—密教のルーツとマンダラ世界—
4月13日(土)~6月9日(日)
東・西新館

名品展

珠玉の仏教美術

~1月14日(日)・2月10日(土)~3月17日(日)
西新館

珠玉の仏たち
通年 なら仏像館

中国古代青銅器
通年 青銅器館

特別陳列

おん祭と春日信仰の美術

―特集 春日の御巫―

令和5年12月9日(土)～1月14日(日)

春日大社の冬の「おん祭」は、平安時代に若宮社が建てられた翌年、保延二年(一一三六)に始まったとされ、この度八八八回目が行われました。

当館では、この伝統あるおん祭の時期に合わせて、



神楽装束(二人舞)・簪(奈良・春日大社)

絵画や文献史料、芸能資料等を通じて、おん祭の歴史と祭礼を紹介する特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」を開催してきました。この展覧会では毎回、特集となるテーマを設けてきましたが、十六回目の今回は「御巫」すなわち春日大社の巫女を取り上げました。今日のように神社に常駐して神楽を奉納する巫女は、春日若宮に始まったといえます。

本展では、おん祭と春日信仰の歴史を紹介するとともに装束や史料を通じて御巫の歴史を紹介します。



春日鹿曼荼羅(奈良・北京終町春日講)



春日若宮御祭礼絵巻 中巻(部分)(奈良・春日大社)

特別陳列

お水取り

2月10日(土)～3月17日(日)

東大寺の年中行事として有名な「お水取り」(毎年3月1日～14日)。正しくは「修二会」といい、二月堂の本尊に対し、「十一面観音悔過」という法会を行うものです。これは一年の内に起きた過ちを懺悔し、あわせて除禍招福を祈るもので、天平勝宝四年(七五二)に実忠和尚によって始められて以来、一度も途絶えることなく今日まで行われてきました。お水取りの期間をはさんで行われる本展ではこの法会で実際に使われてきた香水杓や鏡と呼ばれる特殊な鈴の他、二月堂縁起や二月堂曼荼羅といった関連作品をご紹介します。

なお、同時開催する東大寺ミュージアムの特集展示「二月堂―修二会を支える法会空間―」をご観覧頂いた方には、限定の特製散華をプレゼントいたしますので、会場受付にて東大寺ミュージアムの半券をご提示下さい。



二月堂縁起 上巻(部分)(奈良・東大寺)



二月堂曼荼羅(奈良・東大寺)



金銅三鈷鉢(咒師鈴)(奈良・東大寺)

新たに修理された文化財

1月14日(日)

長い歴史を経て今に伝わる文化財は、その多くが過去に人の手による修理を受けながら大切に保存されてきたものです。これらの文化財をさらに未来へと継承していくために、当館では、彫刻・絵画・書跡・工芸・考古の各分野の収蔵品(館蔵品・寄託品)について、毎年度計画的に修理を実施しています。

本特集展示では、前年度までに修理された収蔵品の中から選りすぐった文化財を展示公開すると共に、その修理内容についてパネルでご紹介いたします。



重文 阿弥陀如来坐像 (京都・泉屋博古館)
彩色層の剥落止め作業

空海 KŪKAI

—密教のルーツとマンダラ世界

4月13日(土)～6月9日(日)

空海生誕一二五〇年を記念して、空海がもたらした密教の国際的なルーツをたどるとともに、空海ゆかりの至宝を一堂に展示します。

「虚空尽き、衆生尽き、涅槃尽きなば、わが願いも尽きむ。」

空海が人々を救うためにたどり着いたのは密教でした。密教はインドで誕生し、『大日経』の教えと、『金剛頂経』の教えという二つの系統が中国・唐に伝えられました。この二つの流れを融合させたのが、空海の師・恵果で、恵果は密教のすべてを空海に授けます。

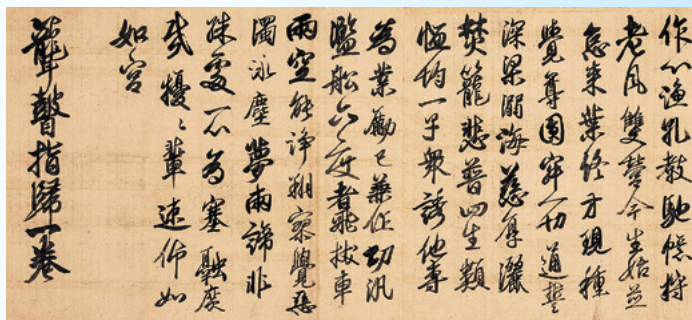
本展では、密教が日本に至った伝来の軌跡をたどることにより、空海が日本にもたらした密教を解き明かします。



国宝 両界曼荼羅 (高雄曼荼羅) のうち金剛界 (部分)
(京都・神護寺)



国宝 金銅密教法具 (京都・教王護国寺〈東寺〉)



国宝 誓指帰下巻 (部分) (和歌山・金剛峯寺)

東大寺二月堂本尊「大観音」についての憶測

当館学芸部研究員 伊藤 旭人

奈良に春を告げる、お水取り(修二会)。この法会が行われる東大寺二月堂の本尊は「大観音」「小観音」と呼ばれる大小二軀の十一面観音像である。いずれも絶対秘仏のため拝することはできないが、『類秘抄』などの記録を通じて、その姿を窺い知ることができるといえる。

小観音は、頭上面を三段に表す珍しい十一面観音像であることは、描かれた図像によつてよく知られているが、大観音の方はご存知だろうか。ともに修二会の本尊であるにもかかわらず、実は大観音の図像として断定できるものは確認されていない。ただ、光背(図1)や天衣の一部は、江戸時代の火災以後、本体から離れて保管されており、これらから金銅製の等身像であることが分かる。今回は、大観音がどのような尊像であるのか想像してみたい。

さて、そもそも二月堂は『東大寺要録』巻第四によると、東大寺初代別当・良弁の弟子である実忠が開き、天平勝宝四年(七五二)に初めて十一面悔過を修したという。また天文十四年(一五四五)に製作された『二月堂縁起絵巻』では、生身の観音を求めた実忠が難波津で百日間の祈請により観音像を得得し、その観音像を今日の二月堂に安置して、天平勝宝四年に初めて十一面悔過を修したと伝えている。実忠感得の観音像とは小観音を指し、縁起の中で大観音は登場しない。

また、平安時代の巡礼記録『七大寺巡礼私記』によると、かつて小観音は、普段は東大寺の印蔵という倉に収められており、修二会の期間中にのみ二月堂に安置されていたことが記されている。つまり、二月堂本来の本尊は大観音で、小観音は修二会専用の本尊であったが、小観音が二月堂に常置されるようになったことで、小観音の縁起が二月堂自体の縁起として波及していったのだろう。では、本来の本尊である大観音



【図1】 重要文化財 二月堂本尊光背身光(東大寺)

はいつ製作されたか、どのような尊像なのだろうか。絶対秘仏のため、尊像の比較検討は叶わないが、【図1】に表された線刻図については、東大寺大仏の台座(蓮弁)の線刻図よりも製作時代が下るといふ見解が出されている。福山敏男氏は、天平宝字六年(七六二)正月から夏にかけて「銅菩薩所」で造られた「銅菩薩像」を二月堂本尊(大観音)に当て、二月堂の建立もこの時期と推定している。

次に尊容について『奈良六六六寺大観』(東大寺二)によると、高さ六尺余り(約一八〇センチメートル)、聖観音ともいわれる金銅十一面観音立像で、二月堂内陣中央の岩盤上に立っているという。また、東大寺別当を歴任された平岡定海氏は、著作『東大寺辞典』の中で「天平期の金銅聖観音」と述べている。以上から、少なくとも大観音は蓮華座ではなく、盤石座上に立つ、ほぼ等身の観音立像と分かる。

十一面観音と聖観音がなぜ混同するのか不思議に思われるかもしれないが、想定される要因の一つに仏像の構造上の問題が挙げられる。一般的に十一面観音像の頭上面は、別で作ったものを取り付ける例がほとんどだからだ。分けて作られた部材は長い歴史の中で失われやすく、後世に補われた例も多い。大観音も、もしかしたら頭上面が失われた十一面観音(つまり外見は聖観音)なのかもしれないが、実際に二月堂本尊として聖観音を表した作例がある。

二月堂は、寛文七年(一六六七)二月十四日の火災によつて、奈良時代以来の堂舎が残念ながら失われてしまった。しかし僅か二年後には再建され、徳川綱吉の母、桂昌院は御正体(懸仏)を寄進した。この御正体には、十一面観音ではなく左手に華瓶、右手は与願印を結ぶ聖観音が表されているのである【図2】。

記録によれば、寛文七年の火災の際、大観音は焼け落ちる二月堂のなかでひたすらに立ち続けていたという。秘仏であることから火災後すぐに帳で覆われたというが、もしかしたら火災に耐えた大観音の姿が聖観音に見えたのかもしれない。

以上、二月堂大観音について、ひたすらに憶測を並べてみた。結論、いかなる姿であるのか定かではない。しかしながら、他見を許さない絶対秘仏という性格が、筆者の興味を掻き立てるのである。



【図2】 二月堂御正体(東大寺)

出陳一覧

名品展 珠玉の仏たち

なら仏像館

令和5年12月19日(火)～

【彫刻】

【第1室】

- 阿弥陀如来立像 個人
- 観音菩薩立像 文化庁
- 不動明王立像 正智院
- 天部形立像 法明寺
- 善導大師坐像 念佛院
- 尼藍婆坐像・毘藍婆坐像 西南院

【第2室】

- 阿閼如来坐像 西大寺
- 文殊菩薩坐像 薬師寺
- 釈迦如来坐像 東慶寺
- 毘沙門天立像 如法寺
- 侍者坐像 当館

【第3室】

- 阿弥陀如来坐像 当館
- 如来坐像 法徳寺
- 阿弥陀如来坐像 現光寺
- 阿弥陀如来立像 善集院
- 阿弥陀三尊像 個人

【第4室】

- 十一面観音菩薩立像 海住山寺
- 如意輪観音菩薩坐像 当館
- 如来立像 個人
- 諸尊仏龕 個人
- 諸尊仏龕 寂照寺

【第5室】

- 誕生釈迦仏立像 正眼寺
- 誕生釈迦仏立像 悟真寺

誕生釈迦仏立像

- 菩薩半跏像 神野寺
- 菩薩立像 法起寺
- 観音菩薩立像 法徳寺
- 観音菩薩立像 興福院
- 観音菩薩立像 法隆寺
- 観音菩薩立像 観心寺
- 十一面観音菩薩立像 金剛寺
- 如来坐像 一乗寺
- 誕生釈迦仏立像 当館

誕生釈迦仏立像

- 二仏並坐像 当館
- 菩薩立像 個人
- 十一面観音菩薩立像 個人
- 力士立像 個人

誕生釈迦仏立像

- 如来立像 光明寺
- 如来立像 当館
- 方形独尊坐像埴仏(中国出土) 当館
- 三尊埴仏 南法華寺
- 火頭形三尊埴仏(伝橋寺出土) 当館
- 小型独尊埴仏(三重県夏見廃寺出土) 当館

誕生釈迦仏立像

- 塑像断片(迦樓羅頭部ほか) (奈良県川原寺裏山遺跡出土) 当館
- 塑像断片(天部・僧形像ほか) (滋賀県雪野寺出土) 福命寺

誕生釈迦仏立像

- 天部形立像 兵庫県
- 広目天立像 興福寺
- 薬師如来立像 元興寺
- 如来立像 当館
- 阿弥陀如来坐像 歓喜寺

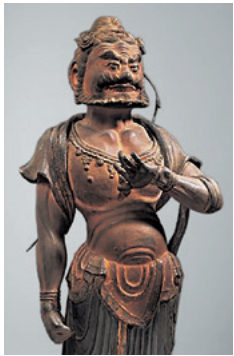
誕生釈迦仏立像

- 不动明王坐像 普門院

【特別公開】

○金剛力士立像

○力士立像



力士立像 (当館)

金峯山寺

当館

【第7室】

- 光背(二月堂本尊所用) 東大寺
- 観音菩薩立像 当館
- 観音菩薩立像 文化庁
- 観音菩薩立像 勝林寺
- 千手観音菩薩立像 園城寺
- 十一面観音菩薩立像 地福寺
- 十一面観音菩薩立像 勝林寺
- 十一面観音菩薩立像 新薬師寺
- 十一面観音菩薩立像 薬師寺
- 十一面観音菩薩立像 当館
- 如来三尊像 当館
- 如来三尊像 個人
- 十一面観音菩薩立像 当館
- 四天王立像残片 西大寺
- 阿弥陀如来立像(裸形) 浄土寺
- 梵天立像 秋篠寺
- 救脱菩薩立像 秋篠寺
- 十一面観音菩薩立像 松尾寺
- 十一面観音菩薩立像 西光院
- 十一面観音菩薩立像 文化庁
- 准胝観音菩薩立像 弘仁寺
- 明星菩薩立像 大福寺
- 地藏菩薩立像 万福寺
- 地藏菩薩立像 当館

【第10室】

○不動明王坐像

○不動明王立像

○不動明王立像

○大威徳明王騎牛像

○龍神像



龍神像 (薬師寺)

正寿院

妙法院

個人

園城寺

当館

薬師寺

【第11室】

- 不动明王坐像 正寿院
- 不动明王立像 妙法院
- 大威徳明王騎牛像 園城寺
- 龍神像 薬師寺

名品展

珠玉の仏教美術

西新館

令和6年2月10日(土)～3月17日(日)

【絵画】

西行物語絵巻 復元模写 文化庁

役行者像 福住町上入田区 文化庁

孔雀明王像 文化庁

十卷抄(経法) 当館

長谷寺縁起絵巻 巻第一 長谷寺

熊野本地仏曼荼羅 文化庁

新羅明神像 聖護院

天川弁才天曼荼羅 能満院

吉野曼荼羅 西大寺

弁才天十五童子像 専称寺

子鳥荒神像 当館

【書跡】

別訳雑阿含経 卷第十(五月十一日経) 宝厳寺

大般若経(安倍小水麻呂願経) 慈光寺

法華経(紫紙金字) 当館

広弘明集 卷第十七(中尊寺経) 当館

明恵上人夢記 当館

明月記断簡 当館

草書書状 建長元年三月二十一日 西大寺

毘尼母経 卷第五(足利尊氏願経) 当館

【考古】

弥生時代の青銅器 当館

【特別公開】

銅鐸(兵庫県南あわじ市松帆地区出土) 南あわじ市

銅鐸(和歌山県みなべ町出土) 当館

銅鐸 妙国寺

銅鐸(静岡県浜松市出土) 当館

銅鐸 当館

銅鐸 当館

◆キャンパスメンバーズ

令和6年1月1日現在、「キャンパスメンバーズ」会員の大学等は以下の通りです。

追手門学院大学文学部・国際教養学部、大阪大学・大阪大学歯学部附属歯科技工士学校、大阪大谷大学、関西大学・関西大学第一高等学校・関西大学北陽高等学校・関西大学高等部、関西学院大学・聖和短期大学・関西学院高等部、関西学院千里国際高等部、関西学院大阪インターナショナル、京都大学、京都外国語大学・京都外国語短期大学、京都工芸繊維大学、京都女子大学・京都女子高等学校、京都精華大学、京都橘大学、近畿大学文芸学部・近畿大学大学院総合文化研究科、嵯峨美術大学・嵯峨美術短期大学、四天王寺大学人文・社会学部・教育学部、就実大学人文科学部、帝塚山大学、天理大学、同志社大学・同志社女子大学・同志社高等学校・同志社香里高等学校・同志社女子高等学校・同志社国際高等学校・同志社国際学院国際部、奈良大学、奈良教育大学、奈良県立大学、奈良工業高等専門学校、奈良女子大学、奈良先端科学技術大学院大学、佛教大学、立命館大学・立命館大学大学院、龍谷大学・龍谷大学短期大学

(以上、五十音順)

◆奈良国立博物館賛助会

令和6年1月1日現在、特別支援会員1団体、特別会員7団体、一般会員(団体)14団体、一般会員(個人)117名のご入会をいただいております。

〔特別支援会員〕 (株)読売新聞大阪本社

〔特別会員〕 (株)奥村組西日本支社、(株)朝日新聞社、

(株)ライブアートブックス、

(株)大和農園ホールディングス、(株)葉風泰夢、結の会

〔団体会員〕 日本通運(株)関西美術品支店、(株)尾田組、

(株)木下家具製作所、(株)天理時報社、

(株)さんでん奈良支店、奈良信用金庫、ひかり装飾(株)、

(株)南都銀行、小山(株)、(株)ワールド・ヘリテイジ、

奈良県有名専門店会、(株)ゴードー

〔個人会員(新規)〕

竹林 暁様 令和5年10月ご入会

花木 順子様 令和5年10月ご入会

金井 博基様 令和5年11月ご入会

杉森 光子様 令和5年11月ご入会

◆「奈良博メンバーシップカード」

「国立博物館メンバーズパス」のご案内

当館の特別展(記名者本人のみ4回まで)や名品展・特別陳列(常設展)を無料でお楽しみいただける「奈良博メンバーシップカード」を販売しております。「奈良博メンバーシップカード」の特典として、各特別展にて研究員の解説付きの特別鑑賞会(抽選制)を実施しております。

また、国立博物館4館の平常展(当館では「名品展」)等を無料でご観覧いただける「国立博物館メンバーズパス」も販売中です。

詳細は右記QRコードからご確認ください、当館観覧券売場へお問い合わせください。



5,000円

(※博物館だより送付有)



4,500円

(※博物館だより送付無)

銅矛(愛媛県四国中央市出土)	当館
銅矛(長崎県対馬市黒島出土)	当館
青銅にこめられた祈り	
◎銅鏡(奈良県大和天神山古墳出土)	当館
◎粟原寺三重塔伏鉢	談山神社
◎線刻蔵王権現鏡像	
(奈良県吉野郡金峯山経塚出土)	
◎銅板法華経	金峯山寺
伝山口県長門一ノ宮経塚出土品	長安寺
◎額安寺五輪塔(忍性塔)納置品	文化庁
独鈷杵・五鈷杵・宝珠杵・羯磨	
(鳥取県国府町出土)	当館
十一面観音懸仏	当館
◎山王十社本地懸仏	当館
弁才天懸仏	当館
十一面観音懸仏	当館

聖観音懸仏	当館
男神懸仏	石上神宮
蔵王権現懸仏	個人
金剛阿弥陀如来像懸仏	個人
笈	当館
笈	当館
毘沙門天王三尊懸仏	朝護孫子寺
◎扁額(額文「般若寺」、伝嵯峨天宸翰)	般若寺
扁額(額文「海住山寺」)	海住山寺
扁額(額文「金剛乗寺」)	個人



扁額(般若寺)

中国古代の商(殷)から漢代に製作された、青銅器の逸品を展示しています。合があります。

※◎Ⅱ国宝、◎Ⅱ重要文化財

※展示品は都合により一部変更する場合があります。



鼎(紀元前11~10世紀)

名品展
中国古代青銅器(坂本コレクション)
青銅器館

【表紙解説】 重要文化財

不動明王坐像

木造 彩色
像高八三・〇cm
平安時代(九世紀)
奈良・普門院

桜井市に位置する普門院不動堂の本尊。かつて大神神社の神宮寺であった平平等寺にまつられていたが、明治時代初頭の神仏分離を経て平平等寺が廃絶したため、明治八年(一八七五)に普門院に迎えられ不動堂の本尊とされた。

太くうねる眉、眼球のふくらみを強調した両眼、先端の尖った鼻がつくる怪異ともいふべき忿怒相や、肉体の弾力を感じさせる重量感に富んだ体軀、するどい衣文の彫法は平安時代初期の特色を顕著にしめしている。個性派ぞろいの平安初期不動明王像のなかでも屈指の優品である。

山口 隆介(当館学芸部主任研究員)

3月24日(日)まで特別公開

❖ サンデートーク ❖

美術や歴史のこと、博物館の活動など、当館ならではの多彩なテーマ、日頃聞くことの出来ない「通(つう)」なお話をご用意して、皆様をお待ちしております。どうぞお気軽にご参加ください。

■ 1月21日(日)

「東日本大震災文化財レスキューの今」

荒木 臣紀(当館学芸部上席研究員)

今でも行われている東日本大震災で被災した文化財の保存修理活動の中から、津波による被害を受けたガラス乾板が保存修理を行いながら展示活用に向けて再評価されていくお話しをします。

[受付期間 1月5日(金) 12:00~1月20日(土) 17:00]

■ 2月18日(日)

「イギリス王子たちがみた日本 —明治14年の旅行記と古写真から—」

宮崎 幹子(当館学芸部資料室長)

明治14年(1881)、イギリスの王子たちが日本を訪れ、奈良に立ち寄りました。彼らは正倉院で宝物を拝観し、他にも多くの社寺をめぐる。彼らは何を見て、何を感じたのでしょうか。当時の奈良の状況とあわせてお話しします。

[受付期間 2月2日(金) 12:00~2月17日(土) 17:00]

■ 3月10日(日)

まつほ 「松帆銅鐸の軌跡」

定松 佳重 氏(南あわじ市埋蔵文化財調査事務所主任)

2015年に南あわじ市で7点の銅鐸と舌が発見されました。調査が進むにつれ次々と新しい事柄が判明し、銅鐸研究に大きな波紋を広げました。今年で8年目を迎えた松帆銅鐸の軌跡をお話しします。

[受付期間 2月22日(木) 12:00~3月9日(土) 17:00]

■ 4月21日(日)

「神社と鏡」

中川 あや(当館学芸部教育室長)

神社に奉納される鏡、神社の祭祀に用いられる鏡、神社周辺の経塚に埋納される鏡など、神社と鏡の様々な関わりについて近年の調査成果も交えながらお話しします。

[受付期間 4月5日(金) 12:00~4月20日(土) 17:00]

■ 5月19日(日)

「仏さまの《スカート》」

岩井 共二(当館学芸部美術室長)

如来・菩薩・明王は、「^{くん}裙」という巻きスカート状の^{ころも}衣を着けています。裙の様々な着付け方を紹介することで、仏像の形状理解を深めていきたいと思えます。

[受付期間 5月2日(木) 12:00~5月18日(土) 17:00]

■ 6月16日(日)

「甦る古代美術—修復と復元、そして創作—」

三田 覚之(当館学芸部主任研究員)

一見美しく保たれているように見える古代美術。しかしその裏には保存と修復の弛みない努力があります。また当初の姿を甦らせる復元や、すでに失われたものの創作など、講師が携わってきた文化を伝える裏側をご紹介します。

[受付期間 5月31日(金) 12:00~6月15日(土) 17:00]

【時 間】 《1~3月》14:00~15:30(13:30開場)
《4~6月》13:30~15:00(13:00開場)

※2024年4月より開催時間が変更となります。

【会 場】 当館講堂

【定 員】 各回180名(事前申込先着順)

【申込方法】 当館ウェブサイトより必要事項をご入力の上、お申し込みください(WEB申込のみとなります)。

【受付期間】 各講座欄をご覧ください。

※聴講無料(展覧会観覧券等の提示は不要です)。

※聴講には事前申込が必要です(当日申込でのご参加はできません)。

※入場の際には、受付完了メール画面をご提示ください。

※応募は各回お1人様1回でお願いいたします。

※定員に達し次第締め切りとさせていただきます。

開催時間変更

のお知らせ

2024年4月より

開場 13:00

開演 13:30 ~ 15:00



4月から
はじまるのが30分
早くなるんだね~

❖ 公開講座 特別陳列「お水取り」 ❖

■ 2月10日(土)

「二月堂が国宝に指定された経緯を探る」

狭川 普文 師(東大寺長老・東大寺総合文化センター総長)

【時 間】 13:30~15:00(13:00開場)

【会 場】 当館講堂

【定 員】 各回180名(事前申込抽選制)

【応募方法】 当館ウェブサイト「講座・催し物」→「公開講座」申込フォームより必要事項をご入力の上、お申し込みください(WEB申込のみとなります)。

【受付期間】 1月15日(月)10:00~1月29日(月)17:00

【参加証の送付】 当選者には、2月2日(金)までに参加証(当選メール)をお送りします。当日必ずご提示ください。

※聴講無料(展覧会観覧券等の提示は不要です)。

※応募は各回お1人様1回でお願いいたします。

※参加証で展覧会場に入場することはできません。

※当選者にキャンセルが発生した場合、繰り上げ当選連絡を行います。詳細はウェブサイトをご覧ください。

特別陳列 「お水取り」



奈良国立博物館と東大寺ミュージアムの両会場をご覧頂いた方に二月堂本尊光背をモチーフにした限定の特製散華をプレゼント致します。

どちらかの会場受付にてもう一方の半券をご提示下さい。

名品展「珠玉の仏教美術」

おながどりもん けまん
尾長鳥文華鬘

※1月14日まで公開

銅製 鍛造 鍍金
縦33.2cm 横39.9cm
鎌倉時代(14世紀)
当館



華鬘とは本来、花を連ねて神や仏に捧げたもので、現在でもインドや東南アジアにおいてはマリーゴールドをはじめとした生花が用いられている。わが国においては金銅製のほか、牛皮製、木製、ガラス玉製といった工芸的に贅を尽した華鬘が平安時代以降多く作られるようになり、仏堂の中を飾るようになった。本作は滋賀県近江八幡市の浄厳院に伝来した金銅製の華鬘で、中央に向かい合う尾長鳥を表わしているのが特徴的である。全体の地は花の連なりを意味する宝相華唐草が透彫されており、この花を束ねるものとして蝶結びの紐(総角)が垂らされている。宝相華は仏の世界に咲き乱れるという空想上の花で、尾長鳥は浄土の花園に舞い遊ぶ様を示しているのだろう。宝相華の葉脈や尾長鳥の羽毛などが、繊細かつ的確なタガネの線で表されるなど、細かな点まで注意が行き届いている一方、全体の造形は大ぶりで充実感があり、鎌倉時代前期に遡る感覚も見受けられる華鬘の名品である。

三田 覚之(当館学芸部主任研究員)

展示品の
みどころ

名品展「珠玉の仏教美術」

特別公開

どう たく
銅 鐸
(松帆銅鐸)

青銅製 鑄造
高22.1~32.2cm
最大幅13.1~18.7cm
弥生時代前期~中期
(紀元前3~前2世紀)
兵庫・南あわじ市



南あわじ市提供

2015年、淡路島の最南端、南あわじ市にある工場の一角で7個の銅鐸が発見された。地名にちなんで「松帆銅鐸」と名付けられたこれらの銅鐸は、わが国の銅鐸の中では古い段階に位置付けられるもので、銅鐸研究を飛躍的に進展させる様々な知見をもたらした。

まず、銅鐸にはそれぞれに「舌」という細長い棒が伴っていた。これは銅鐸内部に吊り下げて音を鳴らすための部品であるが、銅鐸と一緒に発見されるのはとても珍しい。さらに、銅鐸の吊り手や舌の一部には、吊り下げるための紐や、その痕跡が残っていた。松帆銅鐸の発見によって、初期段階の銅鐸は、音を聞く銅鐸であることが明らかになったのである。

また、銅鐸は舌を吊り下げたまま、大きい銅鐸に小さい銅鐸を入れた入れ子にして埋められていた。その理由は明らかにされていないが、使用を終えた後の埋納のあり方を示す例として大変注目される。

松帆銅鐸が見つかった地域は、古くは江戸時代より銅鐸や銅剣の発見地として知られている。瀬戸内を望む交通の要所に位置するこの地域は、青銅器を埋める祭祀をおこなうにふさわしい、神聖な場所であったのかもしれない。

今回は南あわじ市の協力により、当館での公開が叶うこととなった。同時に展示される当館所蔵の銅鐸と見比べながら、「聞く銅鐸」と「見る銅鐸」、各々の姿の美しさを味わって頂ければ幸いである。

中川 あや(当館学芸部教育室長)

■開館日時(1月~3月)

■開館時間/午前9時30分~午後5時

※2月3日(節分の日)、3月12日(雛松明の日)は午後7時まで。
※3月1日(節分)~11日(月)、13日(月)~14日(月)(東大寺二月堂お水取り期間)は午後6時まで。
※入館は開館の30分前まで。

■休館日/毎週月曜日、1月9日(火)、2月13日(火)

※1月8日(月・祝)、2月12日(月・休)、3月4日(月)~11日(月)は開館。
※その他、臨時に休館日を変更することがあります。

■無料観覧日(特別陳列・特集展示・名品展)

／2月3日(土)(節分の日)

※当館には駐車スペースがございませんので近隣の県営駐車場等(有料)をご利用ください。

■観覧料金 名品展・特別陳列・特集展示

	一般	大学生
個人(当日)	700円	350円

※高校生以下および18歳未満の方、満70歳以上の方、障害者手帳またはミライROIDをお持ちの方(介護者1名を含む)は無料です。
※奈良国立博物館キャンパスメンバーズ加盟校の学生及び教職員の方は無料です。
※高校生以下および18歳未満の方と一緒に観覧される方は子ども1名につき同伴者2名まで一般100円引き、大学生50円引きとします(親子割引)。



[交通案内]近鉄奈良駅下車徒歩約15分、またはJR奈良駅・近鉄奈良駅から奈良交通「市内循環」バス(外回り)「氷室神社・国立博物館」下車すぐ。